

玉川教会たより

NO. 456

4月27日



ヤング・アタル
 トモのを出して
 つく。

▼余く記憶はな
 らものの、モ
 王だから、
 きつて、ミヤハ
 ル・エリヤと蘭

▼無闇矢鱈、肝個性もなく本を眺めていざと、
 積み重なった本棚の横へ、出自不明の文庫本
 がひっそりと隠れていた。目立たず、過
 ぎる。邪魔に思われてはなむひたしてしま
 う。余く姿を見せると、何となくをかがり、口
 づきになりす。じつと身を潜めて時を待たせ
 てした本がある。

▼「王の物語」を知りながら、読んだ覚えも書
 いた記憶もな。著者、エリック・ヒムズブル
 シ・シムズ、名はひま。出版社はメトロポリ
 ム・ブックス、ネット上で購入。ミミックの本や、

モモの物語

遠くへ出て、そうではないと知れた時点で
 興味の手を失ったのだ。しかし、騙さ
 れたと感じて捨てるのははなかつた。こ
 ころ、捨てるのは、目玉に主張。あんな
 て捨てたのだ。

▼今、その時が来た。雑多な日常に疲れ極め

る罪の、心の隙間を見つけた。1、2
 〇頁の薄の本が、すうと、入り込んで
 きた。

▼「サローヤン」の「我が名はサラト」三浦朱門
 氏、福武文庫、1000年、「股室もあめて
 共通点が多い。似たような本が他にもある
 女に思いつく。取り上げず、女に思いつくは、
 主題を、巻末かすて、ひびくと語り、人物も
 出来事も、うつつとひびく。その前後と、な
 て描いた。ひびく。その前後と、な

知識、人生観、信仰も、あくまで表面をなぞ
 るだけ、これは、完全に意図的だ。

▼キラッと一瞬光る会話が随所に散りばめ
 られている。しかし、これも過剰にならない
 ように、意図的に抑制されている。挿話も
 なくて、言葉もなだりひびく。

「人は、幸せだから笑うんじゃない。笑うか
 ら幸せになるんだ。」

「エヤヤ人だして、神さまとは國
 係なの。」

「私」としては関係ない。エヤヤ人である
 うこととは、単に思いつく出を背負っていると
 うたけのことだ。嫌な思いつく出をね

「おじさんはどうしてそんなに幸せそう
 の？」

「わたしは自分の「コーラ」の中身を知って、
 たたそれだけのこと。」

▼3分の2ほど読んで、やっと気付いた。10
 年前に既に読んでいた。エリック・ヒムズブル
 シ・シムズ「エリヤ」高木雅人訳、日本
 放送出版協会、2005年（の著者ではない）
 か、10年前、命に関わる大病を得て入院して
 いた。その本で読んでいた。引用した箇所は、
 は、挿え目に黄色いマークが引かれている。
 最初に読んだ人は、私と同じような関心を
 持っていた。ひびく。ひびく。ひびく。自分

自身だったとは。
 病のために、集
 中して読むこと
 が出来なかった
 ので、ひびくも
 う一度と書きた
 本棚の隅に隠したものでした。

▼ここにもマークが。

「わたしは、この星のほろを喰って気持ち
 があがり、自分が他人より価値ある存在だ
 なんていう思いあがりがない。なるからね。わ
 れにおつ。われにおつ。ゆえにわれの心は
 落ち着く。」

▼丁度、ある現代日本人作家の既刊文庫本を
 全て読み終えて、読書目標を喪失した状態
 だった。シムズを眺めると、神さまとお話
 した。通の手紙（阪田由美子訳、PHP研
 究所、2004年）、小説 イエスの復活
 （阪田由美子訳、日本放送出版協会、2001
 年）、「エリヤ」の著者（阪田由美子訳、
 PHP研究所、2004年）、いずれも興味
 深い。

▼最後に、もう一冊だけ引用。七福の教えの
 ように述べられた最後の箇所、

「存在せぬものは、創造せよ。それは自己

